

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念であり、理念の中には家庭的温かさ・個人の尊厳を謳っている。個人の尊厳、豊かな生きがいのある生活の中には、地域との交流ということも含まれている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有のためにホーム内に掲示するとともに、全職員が名札の裏にカードとして携帯している。	理念は、1年に1回理事長とともに見直す。また、理念の実現に向けて年間目標を立案、年間目標の実現のために、各職員が行動目標を立案し、取り組んでいる。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域運営推進会議の場を活かし、理念やホームの取り組みを伝えている。また、地域に向けた広報誌には、理念を載せている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	商店街の中という立地条件を活かし、日常的に町に出かけ行き、地域の方、入居者が交流できるよう努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	社会福祉協議会の利用者の方との交流会、地域の祭りへの参加、ホームの行事に地域の方に来ていただいている。近所の店に外出に出かけることもあり、設立当初と比較すると地域の方の理解も得られている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在実施できていない。	○	地域運営推進会議のメンバーの拡大を図っている。その中で、まずは民生委員を通し、認知症への理解について話していきたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の結果について、理事長・職員で話し合い、次に活かしている。		評価結果を分析し、次への行動計画を立案して取り組んでいる。例えば、昨年の自己評価において、ほとんどの職員が緊急時の対応について不安を抱いていると評価をした。今年度は、緊急時の対応の研修に5名が参加し、月1回のミーティングで勉強会を実施している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年度外部評価終了後に開催した地域運営推進会議では、外部評価時の様子をビデオ撮影したものを参加者に観ていただいた。また、外部評価の結果を参加者に伝え、話し合いを行った。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、介護支援専門員連絡会などに積極的に参加し、意見交換・情報収集の機会を得ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修やミーティングなどの勉強会で、全職員が学ぶ機会を作っている。また、入居者のご家族等から相談等があった場合は、パンフレットを渡し、制度について説明・紹介をしている。		11月のミーティングで権利擁護の勉強会予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、ミーティングでの勉強会で、学ぶ機会を持つようにしている。		7月に勉強会を実施している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでの段階を明確にして取り組んでいる。ホームの役割、料金、入居後の生活支援などを、入居前にご本人・ご家族と管理者が面接をして、話し合っている。その時に、ご本人・ご家族の意向や希望を聞き取り、実現できるよう取り組んでいる。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「おたより箱」(ご意見箱)を設置したり、ご家族に意見用紙を配布して、ご意見・ご希望などが得られやすい環境作りに努めている。得られたご意見・ご希望に関しては、理事長・職員と検討した結果を、ホーム広報誌「ふぁみり」に記載している。	苦情に関しては、「苦情相談」に記載して、要因や対策を理事長と共に検討している。必要に応じて、インシデント報告書に再記入し、再発防止策の評価をする仕組みを作っている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族への報告は、とても重要視している。ホームでの生活を伝えるために職員で話し合い、入居者の健康状態や報告のために「ご家族伝達用紙」を活用して、大切なことを伝え忘れることがないように取り組んでいる。また、小遣いは3か月に1回、ご家族に確認をさせていただいている。	○ 新採用者職員の配置に関しては、ホーム広報誌に記載して、お伝えできているが、退職や異動については報告できていないため、今後、報告するように取り組んでいきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議は、ご家族だけでなく、近所の方、役場・地域包括センター、社会福祉協議会の方のご意見をいただく良い機会として活かすことができている。ご家族とは、年に1回、管理者・担当職員が「家族会」を持ち、個別にご意見やご希望を伺い、ケアにつなげている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、理事長・管理者・職員と運営に関することをふまえた話し合いを行っている。この場では、職員の意見や提案などについても話し合っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の重度化に応じて、ユニットの人員配置を考慮している。また、業務的な内容に関しては、状況に応じて変更を行うなど、対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にするためにも、異動は最小限にとどめている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験・能力に応じて、法人外研修に参加している。 また、法人での勉強会にも積極的に参加している。		新採用者配置時には、2～3年目の職員が指導担当者となり、一緒に働きながら学んでいく機会を作っている。指導する職員も教えることで、自らが学ぶ・指導する力をつけられるようになってきている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会は実施していないが、17年度の相互評価をきっかけに近隣のホームの職員と交流を図り、お互いの取り組みについて相談をしたり、アドバイスのやり取りを行っている。		更に交流を深め、また、入居者同士の交流につなげられるように取り組んでいきたいと考える。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は月1回職員と面接を行い、各自の目標に対する進捗状況を確認すると共に、課題や悩み、希望なども確認している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の意欲向上のために、目標管理シートを活用して評価をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでには、ご本人との面接を行い、不安や悩みを傾聴している。また、サービス利用が開始となり、ご本人がホームの生活に慣れるまでの間は、特に注意して、訴えや行動を観察し対応している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでの間に、ご家族とは2～3度面接を行っている。入居に至るには、その家庭により、様々な事情を抱えているため、そのことを傾聴しながら、ホームでの支援方法についても検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の中には入居だけではなく、介護保険の申請から必要な方もおり、そのような方には、どのようにして申請するか、どのようなサービスを必要しているのかを聞き、法人の居宅介護支援事業所と連携を取りながら対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じ、ご家族と話し合いながら、自宅への外出・外泊をこまめにし、ホームに慣れていただくという支援を行っていくという計画を立てたこともあるが、今までのケースでは早い段階でホームでの生活に慣れたが、入居者個々に応じて対応していきたいと考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活をするということを大切にしている。場面に応じて、入居者からのアドバイスをもらったりしている。入居者同士の喧嘩も双方の訴えを傾聴しながら、入居者同士が更に信頼関係が築けるよう支援している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との意見交換の場は大切にしている。入居者ができたこと・楽しかったことをお伝えしながら、また、身体的・精神的な低下について、今後の対応をご家族と相談しながら一緒に支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者ご本人とご家族の関係は、さまざまである。その関係性については、理解したうえで、最善の対応ができるよう取り組んでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が自宅でいた時に通っていた歯科医・眼科・美容院に出かけられるよう、ご家族の協力を得ながら支援している。時には、お墓参りに行ったり、お寺に行ったり、知人宅を訪問したりと、入居者の希望に可能な限り、対応できるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々の性格と入居者同士の関係性を把握したうえで、入居者同士がうまく関わり合えるよう支援している。人間同士なので誰もが仲良くというわけにはいかないもので、このようなことも考慮したうえで、入居者ご本人が生活しやすい環境づくりに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状を書いたり、現在入院されている方にはお見舞いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ご本人の意向を第一に考え、支援している。日常的な選択の場合、また、ケアプラン立案時にも入居者ご本人の意向を考え、支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に協力をしてもらい、入居者ご本人の生活歴シートを作成してもらっている。それをもとに、入居者個々から得られた情報を職員がつけた生活歴シートを作成している。これをもとに、支援方法を検討したり、活かしたりしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者個々に応じた生活パターンを把握している。午前中が活動的な方、夕方から活動的な方など、それぞれに異なり、それぞれのパターンを把握し、活動的なときにできることをしてもらえるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン立案前にご家族の意向・入居者の意向を必ず確認し、プランを立案している。また、月に1回モニタリングを実施し、どのように支援していくべきかを、常に検討・改善、実践している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを毎月月末に実施している。また、身体的・精神的変化が生じた時は、アセスメントから実施し、ケアプランを再立案している。立案したケアプランは、ご家族に説明すると共に、毎月実施しているモニタリングについて、ご家族に配布して現状を知っていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的変化・精神的変化・受診状況・その日に実施したこと・入居者ご本人から訴え・ご家族からのご意見等、日々のことは全て介護記録に記録し、それをもとにモニタリングやケアプラン立案に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自営業が忙しく面会に来れない時期は、散歩の途中に自宅を訪問したり、自営業の定休日に入居者との外食を計画し、家族と一緒に食事をする機会を設ける等している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	積極的な関わりは持っていない。しかし、近隣の交番にホームの説明を行ったり、民生委員に地域運営推進会議に参加してもらうよう、現在取り組んでいる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、自宅の草取りなどで、地域のシルバー人材に依頼することはあるが、その1件のみである。		今後、入居者ご本人・ご家族からの依頼・ご要望があれば、柔軟に対応していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者またはご家族個別に、地域包括支援センターとの連携は図っていない。	○	今後、入居者・ご家族、また、入居希望者の必要性を判断して、直ぐに連携が取れるようにしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族のご協力を得ながら、自宅にいた時に通院していた病院に定期受診をされている方もいる。日々の健康管理は母体となる病院・医院で実施しており、入居の際に、そのことを説明し、同意をいただいている。歯科・眼科・皮膚科などは、通い難れた病院を利用できるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週1回定期受診をしている内科医師に、常に入居者個々の健康状態・認知症状を相談し、アドバイスをもらっている。医師は、入居者個々を理解し、最善の方法を常に検討している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設している内科看護師は、全入居者のこと健康面・精神面を理解し、介護職員からの相談に、常に、積極的に対応してくれている。また、医療連携をとっている訪問看護師も同様で、毎日訪問して、健康管理に努めてくれている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	同法人の病院に入院するケースがほとんどであるが、入院に至った場合は、ホームでの生活状況・性格など、介護添書を活用し、病院職員に伝えている。また、職員は、病院を訪問して状況を把握し、病院職員と情報交換を行っている。退院に関しては、理事長と共に検討しながら、入居者の状況に応じて対応している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状況に応じ、医師からご家族に説明を行い、ご本人・ご家族のご希望に添えるよう支援している。また、職員でどのように支援していくかを話し合い、ケアを実践している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師・併設の内科看護師・訪問看護師と連携を図りながら、実践している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所となったケースは病院・施設があるが、退所に至るまでの経過・ホームでの生活状況などを介護添書を活用して、情報提供を行っている。また、可能な限り、生活状況を変えないように依頼をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>法人の医療サービス改善委員会の委員として、管理者が活動している。接遇・マナー向上を目指し、取り組んでいる。また、個人情報に関しては、介護事業部勉強会などで個人情報の勉強会を行い、理解を深めている。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>このようにできるよう努力をしているが、全てではない。特に、外来受診等は時間に決まりがあるため、そのような時は、入居者に説明をして、協力が得られるよう努めている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>栄養士により献立を立案しているが、入居者の希望やご家族等から野菜をいただいたときは、メニューを変更している。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>現在の入居者の中には、飲酒・喫煙をされる方はいないため、このことに関しては実施していない。喫煙に関しては、全館禁煙となっているため、ホーム内での喫煙は今後も行わない。おやつや飲み物などは、入居者個々の好みを把握し、提供している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全職員で前向きに取り組んでいる。トイレで排泄ができるということを、大切にしていきたいと思っている。		排泄時の失敗を減らすために、入居者の排泄動作を把握し、ユニット全職員が同じ介助方法で支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については制限していない。入居者の希望に応じて実施している。毎日入浴される方もいれば、隔日や夕食後に入浴される方もあり、それぞれに応じて対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の生活パターンを把握し、支援している。また、自室で昼寝をしたり、食堂の椅子に座り、ウトウトしたり等、どこでもくつろげるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域の祭りやホーム内での行事、外食、ご家族との遠足、また、記念撮影など、いろいろなことを楽しめるような機会を作っている。最近においては、年1回の記念撮影が入居者の楽しみになっており、その日のために美容院に行ったり、服を買いに行ったりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に応じ、また、ご家族と相談して管理方法を検討している。入居者の大半は、職員サイドでの管理になっているが、買い物をしてお金を支払う時は入居者ご本人にしてみたい、お金を使うという場面を大切にしていきたいと思いい、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出に関しては制限していない。希望に応じて、買い物や散歩に出かけている。受診などの関係から、希望した時に出かけられないときもあるが、早急に対応できるよう配慮している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	はすの花やひまわりを見に行ったり、夜に蛍を見に出かけたりしている。また、友人との食事を兼ねた外出やご家族の協力を得ての墓参り等、支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいるご家族、知人に電話をしたり、手紙を書いたり、ご家族から手紙が届いたり、入居者個々に応じて自由に実施されている。電話が自分でかけられない方には、職員がかける等、それぞれに対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問に関しては制限していない。訪問時には、ゆっくり過ごせる場所(自室・食堂など)で過ごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは何かということ、ミーティングなどの勉強会を通じて、学ぶ機会を作っている。		法人の身体拘束廃止委員会に、管理者が委員として活動している。委員会での取り組みや学びを活かしている。10月のミーティングで勉強会の予定。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害については、職員も理解している。しかし、ホームでは、ユニットの玄関には防犯のためにも鍵をかけている。(以前不審者が侵入したことがある)		前年度の外部評価結果から、「鍵をかけない工夫」について地域推進運営会議でご家族・地域の方等と検討を行なった。観光地ということもあり、いつ誰が来るか分からないという不安は、ご家族にもあるようだった。時間的に開放することも検討したが、現在のところ、基本的には施錠している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者個々の生活パターンを把握し、安全が確保されるよう努めている。しかし、転倒のインシデントは多い。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の能力に応じて、対応している。現時点で危険物(刃物類)等の自己管理ができないと判断した場合は、入居者ご本人・ご家族にも納得していただいたうえで、職員が管理をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応については、勉強会を通じて学んでいる。行方不明や火災時の対応マニュアルを作成している。また、火災時は、入居者一人ひとりの避難誘導方法を取り決めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月1回のミーティングで実施している。また、訪問看護師の協力を得て、訪問看護師からの指導・勉強会も実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回以上、防火訓練を実施。また、2～3か月に1回、勤務者同士で災害時の避難誘導の練習を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	全入居者が持っている転倒のリスクについては、入居の段階からご家族に説明を行っている。また、入居者個々の認知症状により、起こりうるリスクについてもご家族にお伝えしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、入浴前にはバイタル測定を実施。異常時は、併設の医院の看護師、訪問看護師に連絡し、必要に応じて、協力医療機関を受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳にて把握し、状態の変化を観察し、医師にも報告している。医師、看護師とともに、薬の検討を常に行っている。また、処方された薬を確実に服用するために、服薬介助マニュアルを作成して、手順通りに介助を実施している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の大半が下剤を服用しているが、下剤だけに頼らず、運動(散歩や体操)・水分(冷たい牛乳を提供するなど)、腹部マッサージ等も行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、または、就寝前に口腔ケアを実施している。入居者のできる力に応じて、全介助、仕上げ磨きなど、個別対応を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の摂取量、好みを把握し、提供している。水分が少なめの入居者は、一日の水分摂取量を計測し、必要量が摂取できるよう支援している。		栄養士を中心に、栄養ケアマネジメントを実施。現在、高・中リスク者を対象に、栄養ケアプランを立案し、介護職員とともに取り組んでいる。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人の院内感染対策マニュアルをもとに、実施している。		法人の「院内感染対策委員会」委員として、管理者が活動している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・布巾などは、消毒を行っている。また、全ての食材は、一度火を通し、提供している。食材の管理方法についても、マニュアル化し、実践している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	鉄筋コンクリート建てであり、殺風景な印象がある。しかし、玄関、階段には植物を置き、また、廊下には写真を飾るなどの工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こじんまりとしたユニットであり、木の温もりを感じる構造になっている。間接照明、障子を使い、自然な明かりが入るようにしている。居間には花を生け、和室の上がりかまちは、入居者同士で洗濯物をたたんだり、話をしたりと語らいの場となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室でテレビを観たり、本を読んだり、昼寝をしたりと、入居者個々が思うように過ごしている。また、和室の上がりかまちに座って話をしたり、廊下に数か所設置しているベンチでくつろいだりと、思い思いに過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に、ご家族に自宅と同じような環境を作ってもらよう依頼をしている。持ち物に関しても制限をしていない。たんすや机・椅子、趣味の道具など、いろいろなものを持って来ていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに換気を行い、冷暖房もこまめに調節している。入居者の自室は、入居者の状況(暑がり、寒がりなど)に応じて、調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内は基本的にバリアフリーとなっている。入居者の身体機能を活かして畳を敷き、正座での趣味活動を支援している居室もある。また、和室は約40cm高くしており、座りやすくなっている。手摺り付き階段を2段上れば、和室に上られるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの設置か所が多いことから、迷わずトイレに行くことができる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周辺は道路であることから、屋上を活用している。屋上に洗濯干し場を作り、布団を干したりしている。また、入居者同士で協力しながら、プランターで野菜や花を育てている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設当初は、グループホーム自体が何かということが、近隣の方々に理解されていませんでした。認知症＝精神病と言われたこともあり、また、散歩に出かけると、「つれまわして」と言われたこともあります。そこで、地域の方々に知ってもらうには、積極的に出かけようということになり、入居者とともに毎日散歩に出かけ、商店街のお店を利用させていただきました。徐々に、地域の方々の理解も得られるようになり、今では心温かい言葉をかけていただけるようになりました。散歩は、単なる気分転換ではなく、散歩に出ることで町の方との交流を深め、認知症の方を知ってもらう機会として、今でも積極的に出かけています。

また、高齢の入居者も多く、中には元気で過ごすことができた最期の場となる方もいるかもしれません。何気ない日常を写真に残し、一人ひとりのアルバムを作っています。入居者ご自身の思い出になるとともに、ご家族にとっても大切な思い出の写真となると思います。取り組んでいます。

今年度、入居者・ご家族の満足とサービスの質の向上を目指すため、ISOの取得に取り組み、認証を受けました。このことにより、サービス提供の標準化を図ると共に、職員の人材育成、事業所として取り組んでいることの評価・改善・今後の行動を常に考えながら、日々のサービス提供を実践しています。